

CYBER WORLD

マザックワールドコミュニケーションマガジン

To the Next Stage with M

ワールド パーツセンタ

News & Topics

Penske Racing TIMTOS2015

Customer Report

- 07 株式会社 三信製作
- 09 株式会社 アタゴ
- 11 Götz Maschinenbau(ドイツ)
- 13 MAZAK PEOPLE
- 15 美術館情報

プロフェッショナルの
その先へ



2015

No. 45

RePo-1
Portable Refracto-Polarimeter



8万点にも及ぶ部品供給と主軸修理サポートが設備されたワールドパーツセンタ



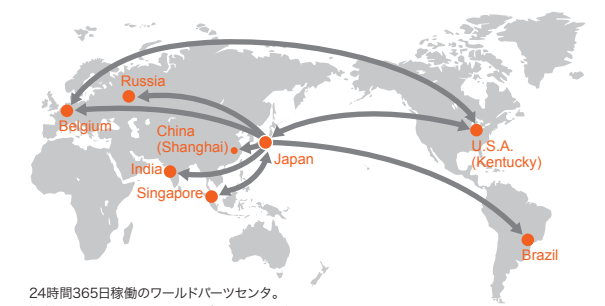
中・大物部品収納用自動立体倉庫

部品供給や主軸修理で顧客を生涯支援 国内向けは24時間以内の必着を目指す

「顧客の利益は納めた機械が順調に動くことでもたらされる。従って、断じて機械を止めさせてはならない。万が一止まってしまったら、その時間を最小限に抑えることに全力を注ぐべし」——。自社製品のサービスやサポートに対するヤマザキマザックの基本理念です。その考え方を部品調達面から実践しているのがワールドパーツセンタ (WPC) です。

WPCは2008年2月、美濃加茂第二製作所の敷地内に開設。延べ床面積約1万200平方メートルで、中・大物部品「収納用立体スタッククレーン」7基(3500棚)、小物部品収納用高速垂直自動棚8基(809棚)を備えています。歴代の計1500機種あまりに対応する保守部品約8万品目を用意。年中無休体制で国内外拠点からの部品供給要請に応じています。

国内向けは受注後24時間、海外向けは部品の大きさを問わず、米国(ケンタッキー)、ブラジル、ベルギー、シンガポール、中国(上海)など主要地域の供給拠点に深夜対応で翌日工場出荷できる体制を構築。受注後24時間以内に出荷できる割合を示す即納率は98%を誇ります。



24時間365日稼働のワールドパーツセンタ。機械購入後のアフターサービスでは、日本、米国、ベルギー、シンガポール、中国に大規模パーツセンタを設け、お客様へ迅速に保守部品の提供を行っている



小物部品のピッキング作業



試運転台にセットされるスピンドルカートリッジ。修理品でも新品同様の品質検査をして出荷



INTEGREXのミル主軸ユニット。
修理後(左)はまるで新品のような仕上がり

30年以上前の製造機種もサポート

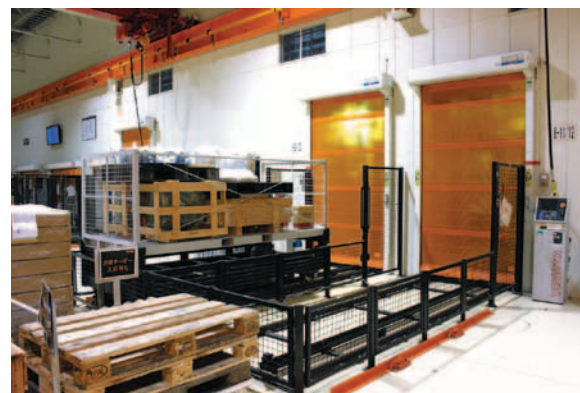
業界標準をはるかに上回る即納率は「納めた機械は生涯にわたって面倒をみる」という創業以来の不文律に支えられています。ですから、30年以上前の廃版機種に対する部品調達も最新機種と同じようにできるのです。

部品交換を要する故障が起きた時、復旧の決め手になるのは部品と技術です。つまり、必要な部品が熟練の技術者の力で迅速に交換されれば機会損失を確実に減らすことができます。こうした対応は顧客にとっての利点であり、安心してマザック機を使い続ける動機付けになっているともいえるでしょう。

主軸ユニットの修理や再生を自前で

WPCは単なる部品供給にとどまらず、工作機械の主要部品である主軸ユニットの修理や再生を自前で手がけています。顧客満足に狙いを定めた基本方針を踏まえた取り組みです。

WPC内に設けられた「ワールドスピンドルサポート」と呼ばれる専用工場では、専門知識のあるスタッフが同部品の修理・再生や専用試運転台による性能・品質検査を実施。旧型機から最新機に至る全機種に対応できる体制を整えています。再生品は予備在庫や顧客向けの交換部品として活用されます。



大物部品も自動出庫可能



素早く出庫できる自動コンベヤ



熟練エンジニアによるスピンドルの組み付け作業

News & Topics

ヨーロッパ パーツセンタを3月に拡張 自動化された搬送システムを導入



システム搬入から搬出まで完全自動化された立体倉庫により、お客様へのサポート体制を一層迅速化

WPCと共にグローバルな部品供給を担う海外拠点の一つ、ヨーロッパ パーツセンタ (EPC)の拡張・増築工事が完成し、今年3月に本格稼働しました。欧州各地のサポート拠点と連携してオンラインでの発注や在庫確認ができる「マザックネットワークシステム」や、自動化された搬送システムなどを導入。これらにより、機械の停止時間を極限まで短縮できるような仕組みづくりに努めています。

EPCの披露式典で副社長の山崎高嗣は「拡張に伴って採用した最先端の技術は部品の供給能力を飛躍的に向上させることができます」と挨拶。欧州マザックグループ総支配人のマーカス・パートンも「われわれの納めた機械が常に最高のパフォーマンスを発揮できるようにサポートします」と述べ、マザックの顧客志向を強く印象付けました。



リニューアルオープンしたベルギーテクノロジーセンタ内ショールーム



2015年3月に拡張した「ヨーロッパ パーツセンタ」の外観



披露式典でのテープカット。副社長の山崎高嗣（左から3人目）、欧州マザックグループ総支配人のマーカス・パートン（右から2人目）



「最高」を目指して手を携える チーム・ペンスキーとマザック

22回の優勝と2回のチャンピオンシップ獲得——。2014年はロジャー・ペンスキー氏率いる「チーム・ペンスキー」にとって実りの多い年になりました。2015年になっても勢いは衰えず、2月22日には所属ドライバーのジョーイ・ロガーノが「第57回デイトナ500」を初制覇。同チームはインディカー・シリーズやストックカーなど、米国らしい自動車レース競技で輝かしい戦績を残しています。



工場見学の様子(助手席:ロジャー・ペンスキー氏)

同チームの誇らしい栄光を技術面で支えているのがヤマザキマザックです。両者は共に「最高」を目指し、20年以上にわたって手を携えてきました。両者がパートナー契約を結んだのは、新チーム「ペンスキー・サウス」が設立された1994年に遡ります。その前年に行われたペンスキー氏とマザックコーポレーション社長のブライアン・パプケとの会談が実を結んだものです。

会談の席上で同チームに対する継続的な

サポートを快諾。技術的な協力体制を約束されたチーム・ペンスキーはその利点を十分に生かし、自動車レース競技史上に残る数々のシーンを彩ってきました。

自社工場で製造するさまざまな部品

2014年度ペライゾン・インディカー・シリーズを制したウィル・パワー氏は「勝利は(マシンの)性能こそがすべて。その性能を高める高度な技術こそが世界一のレースカーに求められる」と言い切ります。

この発言は、ペンスキー社とマザックとの関係をそのまま表しています。つまり、レースカーの最高のパフォーマンスを引き出すには、技術的なサポートが欠かせないということです。

実際、ペンスキー社は20年以上にわたり、自社工場に導入した複数のマザック機を使って数多くの部品を製造してきました。ペンスキー社は、インディカー・シリーズやストックカーなど、さまざまなレーシングチームを

抱えるだけに、製造する部品もシャシーからサスペンションまで幅広い種類を手がけています。

迅速で正確な対応が勝敗を左右する

ノースカロライナ州モーズビルにある自社工場(105エーカー=約42万平方メートル)に並ぶマザックの最新設備は、最高の成果を引き出す部品を加工しています。

万が一、設備に問題が起きた場合にはマザックのテクニカルスタッフがすぐに駆けつけるなど、サポート体制も充実しています。レースでは秒単位を競うだけに、こうした迅速で正確な対応はチームの勝敗を左右する大きな決め手になります。

両者が20年以上にわたって築いてきた協力関係は「真の偉業は人が機械を使うことでも達成できる」ことを物語ります。お互いの仕事で「最高」を目指すための高性能化に向けたさらなる挑戦はこれからも続いてゆくことでしょう。



ロジャー・ペンスキー氏(左)とマザックコーポレーション社長のブライアン・パプケ



ペンスキーチームのオーナーであるロジャー・ペンスキー氏にとって、レースでのパフォーマンスは常に最優先事項です。マザック機械の技術と共に、ペンスキーチームは勝利への一歩を踏み出します。



Event Report  Taiwan

MAZATROL SmoothXのデモに強い関心

台湾最大の「第25回台北国際工作機械見本市(TIMTOS 2015)」が3月3日から8日までの6日間、台北世界貿易センターの2つのホールと南港展示ホール、台北花博公園争艶館の4会場で開かれました。1015社が計5411ブースを出展し、開催期間中に約4万7000人が来場しました。

今回展は昨年のJIMTOFを上回る出展規模であったため、主催者が「開催規模ではアジア第2位」と胸を張るほど盛況でした。

こうした中、ヤマザキマザックは複合加工機のINTEGREX i-400SとVARIAXIS i-600の2機種を出展。KEN OKUYAMA DESIGNが手がけたコンセプトカー、K.O 7が展示に彩りを添えました。ブース正面に設けた新世代のCNC装置、MAZATOROL SmoothXをあしらったプレゼンステージには連日多くの人が詰めかけました。

工程集約や無人化の推進にも一役

ブースの中ではSmoothXの操作を体験できるコーナーや、それを実際に搭載してデモ加工するINTEGREX i-400Sの周りに多くの人が押し寄せ、大変な熱気を感じさせました。台湾では現在、航空機産業や半導体産業が好調であるため、それらに必要な同時5軸加工やポケットミル加工などの制御操作を簡単に行えるSmoothXの性能に関心を集めたようです。

現地では、複合加工機の導入による工程集約やロボットとの連携による無人化を進めるマザックユーザーが4割を超えます。それだけに、生産現場でのあらゆる管理機能や管理ソフトの接続インターフェイスを標準装備している点も高く評価されました。



マザックブース外観



MAZATOROL SmoothXをあしらったプレゼンステージが存在感を放つ



新CNCの操作性を体験できるコーナー



プレゼンステージ前には常に人だかりができていた



MAZATOROL SmoothXを搭載したINTEGREX i-400S



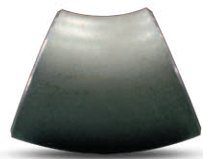
スポーツカー「K.O 7」も展示



01

Customer Report 01

「VERSATECH」に託したメーカーへの道



Japan 株式会社 三信製作

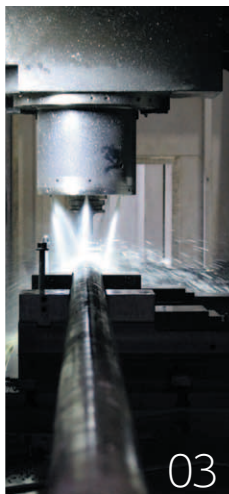
ボイラー、タービン、ポンプなどの部品加工を手がける株式会社三信製作（広島県呉市、竹吉信行社長）の新工場が今年3月1日、本格稼働を始めました。導入機のほとんどがマザック製という工場内で、ひととき存在感を示しているのが多面・5軸門形マシニングセンタ（MC）VERSATECH V-100Nです。工場内の配色をオレンジ＆ブラックで統一するほどマザック通の竹吉社長が同機に寄せる期待とは。



Hiroshima, Japan



02



03



04

- 01. 同社の期待を背負い、新しく導入されたVERSATECH V-100N
- 02. ブラックとオレンジを基調とした、スタイリッシュな新工場の外観
- 03. 同社の得意分野であるボイラー用部品の加工。機械はFJV-35/120 II
- 04. 竹吉社長（中央）を囲む社員のみなさん

COMPANY PROFILE //////////////////////////////////////



株式会社 三信製作

代表取締役社長：竹吉 信行
所 在 地：広島県呉市安浦町内海南4-1-10
従 業 員 数：11名
www.sanshinseisaku.co.jp

信用 信念 信頼
株式会社 三信製作

汎用機向きの仕事をNC機でこなす技術力

同社の強みは、普通なら汎用旋盤や汎用フライス盤でしかできないような仕事をNC機で楽々とこなす技術力。竹吉社長は「経験豊富なボイラー関連の加工なら目を閉じていてもできるほど」と胸を張ります。切削機の大半がマザック製であるのは「修行時代に出合ったのがマザック機で、マザトロールの使い易さに惚れ込んだから」（同）。



新旧マザック機が整然と並ぶ工場の一角



「この機械にはだいぶ稼がせてもらいました」と語る竹吉社長と古参のM4

こうした姿勢は次第に評判となり、紹介による受注も増え、創業月130万円だった売り上げは1年目に8000万円、2年目には1億5000万円へと倍増。飛躍的な伸びを支えたのは活発な設備投資です。中古のNC旋盤3台で立ち上げた同社は3カ月に1台の割合でレトロフィット機を揃え「1年後には念願の新製品を購入できるまでになりました」（同）。

困難を極める仕事がしばしば持ち込まれるのは、マザトロールを使いこなし、秀でた職人技で顧客の求めに応える竹吉社長へのゆるぎない信頼の表れともいえるでしょう。

「断らない」姿勢を打ち出したことに伴う積極的な機械導入は、わずか創業3年半で工場を手狭にさせました。こうして、現在地への移転が決定。新工場ではメイン機種であるVERSATECHのほか、複合加工機1台、門形MC3台、立形MC4台、横形MC1台、NC旋盤4台が勢ぞろい。8月にも新たなレトロフィット機を導入予定です。

世間から必要とされる会社になりたい

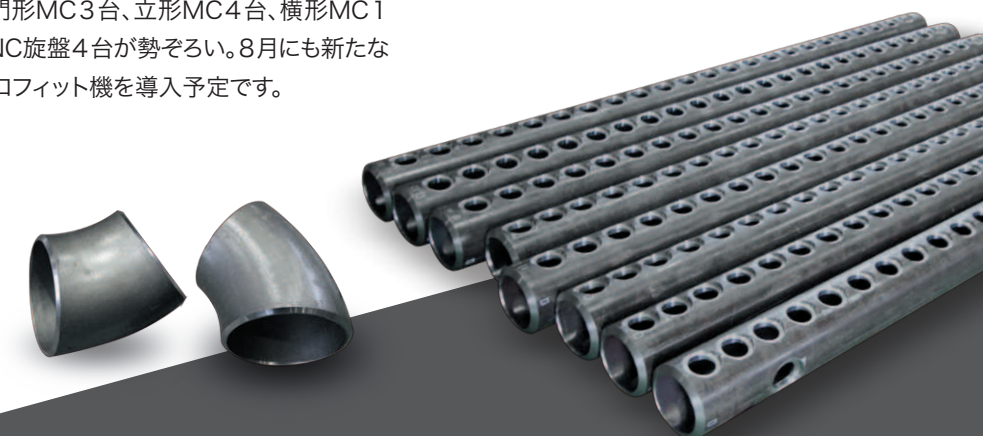
「特殊加工が一発でできるのがVERSATECHの魅力。この機械を駆使することで世間から必要とされる会社になりたい。VERSATECHはそのための心強いツールでもあるのです」（同）。同社は新工場の隣接地に将来の業容拡大をにらんですでに用地を確保しています。

「現在の主力事業である機械加工で一定の規模になったら組み立てにも手を広げ、最終的には独立メーカーとして、自社製品で世の中の役に立ちたいと考えています。その意味で、今回の新工場は悲願のゴールではなく将来の夢に向けてのスタートです」（同）。



ひととき存在感を放つVERSATECHの奥には、多くのマザック機が並ぶ

「信用・信念・信頼」という3つの「信」にちなんだとされる同社の名前。しかし、どうやら、夢の実現に突き進む「信行」という社長の名前も4つ目に隠れているようです。



▲▶ ボイラーの部品の一部、一見シンプルな加工に見えるが、端をテーパ状にする等、高度な技術で加工されている



Customer Report 02

「光で甘さを測る」器械で世界に貢献

● Japan 株式会社 アタゴ

四季折々の果物売り場でおなじみの糖度表示。その裏づけとなる甘さなどを測る器械で国内80%のシェアを占め、独走しているのが株式会社アタゴ(東京都港区、雨宮秀行社長)です。1度の差が売れ行きを左右することもあるだけに器械には極めて高い精度が求められます。この高い精度は同社の技術開発力と、独自の構成部品を仕上げるマザック機の精緻な切削加工能力で支えられているのです。



02



03

01. 深谷工場外観。ガラス壁面を採用した工場内は、明るく清潔感があふれる
02. “アタゴカラー”で統一されたマザック機が工場内にズラリと並ぶ
03. 雨宮秀行社長(後列右から3番目)を囲む社員のみなさん

COMPANY PROFILE



2011年グッドデザイン賞を受賞

株式会社 アタゴ

代表取締役社長：雨宮 秀行
本社所在地：東京都港区芝公園2-6-3 芝公園フロントタワー23階
工場所在地：埼玉県深谷市小前田501
従業員数：147名(国内のみ)
www.atago.net



伸びしろに着目した積極的な海外展開

同社が重視する海外市場の多くは、いずれも「伸びしろ」のある国々ばかり。「国が豊かになり、安全や品質の基準が厳しくなると必ず数値管理が伴うので当社の製品が求められるのです」。雨宮社長は主力の屈折計が果たす社会的な役割をそのように強調します。今年はメキシコとナイジェリア、来年はドバイに合弁会社をつくり、メンテナンスやサービスが迅速にできる体制を整える計画です。



「10%ずつの成長」。市場を拡大しても、製造現場を大切にしたいと話す雨宮社長



工場内の一人ひとりの手によって、ひとつの精密器械が作られていく

「手持屈折計や世界初のデジタル屈折計など、専業社ならではのノウハウを生かした製品を開発し、自社生産する姿勢を一貫して保っているのが最大の強み」(雨宮社長)。実際、製品開発から加工、組立、検査、出荷に至る生産工程のほとんどを自社で完結しています。

▶ 糖液の果糖やぶどう糖、構成成分の割合がわかるポータブル屈折旋光計「RePo-1」(左)。プリズムシャーシをマザック機で加工している
右はポケット糖度計PAL-1。2003年グッドデザイン賞を受賞



Customer Report 02

● Japan 株式会社 アタゴ



工場内に掲げられた言葉が、トップメーカーとしての誇りを感じさせる

「T.G.I.M.」目指した社員本位の工場

「マザクトールの使い勝手もさることながら機体のデザインが魅力的。優れたデザインは働く人の気持ちを熱くするからです」。マザック機に対する雨宮社長の率直な思いです。この言葉を裏付けるように、フェラーリの工場に感銘を受けた雨宮社長の陣頭指揮で建設が進められた深谷工場は2011年のグッドデザイン賞を受賞。「自社に対する社員の満足度を高めたい」という願いを形にしました。

休日を迎えられることに感謝する『T.G.I.F.=Thank God, It's Friday(神様、やっと金曜日がやってきました)』という格言があります。雨宮社長はこれを踏まえて、月曜日でも快適に働ける喜びを『T.G.I.M.』という言葉に要約。感謝の対象である「M」は、Mondayばかりでなく、MAZAKの頭文字でもあります。



01

Customer Report 03

中古機で磨いた技を新品のマザック機で開花

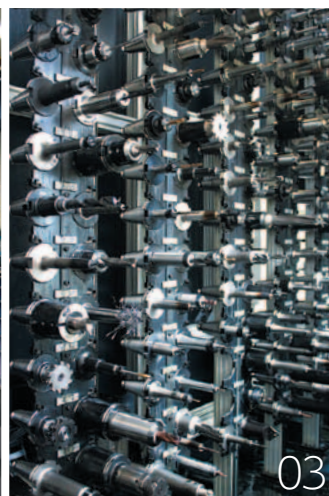


 Germany Götz Maschinenbau

一般機械から建設、オイル、医療産業に至るまで、グーツ機械製造株式会社(ドイツ、ローランド・グーツ社長)が手がける部品加工の業種は多岐にわたります。同社は加工内容によって無人化設備による大量生産と、多品種少量生産を巧みに使い分けることで独自の成長を遂げてきました。その節目節目で同社の経営を後押ししてきたのがマザックのさまざまな機械やシステムです。



02



03



04

- 01. ワークは、MODULARTECH SYSTEMを介して左のストックから右のFH-6800へ搬入
- 02. ワークの取り付けを行うローディングステーション
- 03. TOOL HIVEの様子。グーツ社では250本以上の工具が使用されている
- 04. グーツ社長(右から2人目)と社員のみなさん

COMPANY PROFILE //////////////////////////////////////



Götz Maschinenbau

代表取締役社長：Roland Götz
所在地：Industriestraße 3, 76470 Ötigheim
従業員数：85名
www.goetz-maschinenbau.de



最新の工作機械やシステムを駆使して現在もなお成長を続けるグーツ社。しかし、事業を始める1980年までの4年間、グーツ氏はさまざまな産業で転職を繰り返し、将来の独立に備えた知識や技術を蓄えました。そうした努力の末に、ドイツの伝統的な制度である工業マイスターの職業教育終了試験に合格したグーツ氏は、自らで職業訓練施設を設立し、次代を担う180人の実習生を育て上げました。



「機械は1日20時間も稼働しています」と話すグーツ社長

職業訓練施設の代表を務める一方で、グーツ氏は常にモノになるビジネスチャンスの到来に目を光らせていました。ある日、施設内の古い旋盤用の壊れたギヤボックスを見つけたグーツ氏は、それを一旦分解し、購入したスベア部品を使って組み立て直しました。機械は当然のように、心地よい音を響かせて再び動き始めました。グーツ氏が新たなビジネスの可能性を確信した記念すべき場面です。

こうして、部品加工業に軸足を置いたグーツ氏は実習生の勤務先などを通して取引先

を拡大。修理が得意であったグーツ氏は多種多様な中古機械に改良を施し、それらを駆使して高精度な製品づくりに努めました。

現在も現役で働く14年目のFH-6800

1986年、居並ぶ中古機の中でひときわ輝きを放っていたのはマザックのCNC旋盤。グーツ社が初めて導入した新品の機械でした。翌年にはマシニングセンタのFH-6800を購入。「コストパフォーマンスの良さに惹かれました。今年で14年目になりますが、現役で稼働中。マザックのサポート体制が充実しているので機械の状態は常に万全です」。機械に精通しているだけにグーツ氏の評価は的確です。



MAZATROL上でプログラムを作成するオペレータ

マザック機に対するグーツ氏の評価を決定付けたのは2000年に開かれたスイスの見本市で目の当たりにしたMODULARTECH SYSTEM。同システムを取り入れたFMSで同社の成長には一段と弾みがつきました。FMSの本格導入が無人化運転を進め、生産性を飛躍的に高めたからです。

Customer Report 03

 Germany Götz Maschinenbau

この見本市に同行した代理店のマーティン・ルーテル氏は「その場でFMS化を素早く決めた先見の明には驚くばかり」と当時を振り返ります。

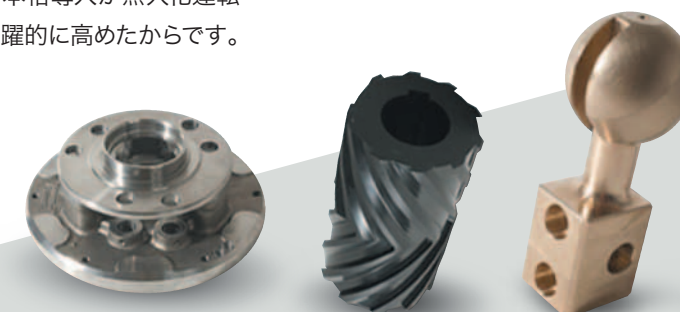
「次の10年」に向けた新技術を開発中

FMSの導入による製造コスト削減は強い利益体質を引き出し、競合社を抑えて商談を有利に進める効果をもたらしました。年々深刻化するいっぽうの技術経験者不足を補う利点もあります。実際、同社には現在も職場訓練実習の申し出が後を絶たないそうです。



INTEGREX e-1550V/10による加工

職業訓練施設の運営から部品加工業に転じたグーツ社の独特な事業展開を引き継ぐのは2人の息子とみられています。このうち機械エンジニアの長男は、本社工場とは別の場所にある組立工場の責任者として活躍中。とはいえ、「次の10年に向けた新技術の開発を進めています」と将来構想の一端を明かし、新事業所の建設にも意欲を示すグーツ氏。経営の座を譲るのは、もう少し先になりそうです。



▶グーツ社でつくられるさまざまな部品



欧州市場のエキスパートを目指して

PROFILE >> リュウ・ジンさん

2007年ヤマザキマザックU.K. LTD.入社。
欧州全体のマーケティング活動に関わる。趣味は
音楽鑑賞と水泳。週末は息子と一緒にゴルフの
練習に行く。四川大学卒。中国・北京出身。

製造から販売、アフターフォローまで、国内外にたくさんの関連
拠点を展開するヤマザキマザック。MAZAK PEOPLEは、グループ
各社の第一線で活躍する人々を取り上げます。

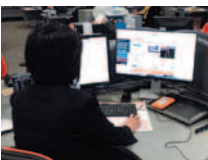
今回登場するのは英国の現地法人、ヤマザキマザックU.K. LTD.
に勤めるリュウ・ジンさん。英国国内だけでなく欧州を統括する拠点
でもあるだけに、仕事は多岐にわたります。

リュウさんの Mazakな 一日



>> 出社

ドロイトウィッチの自宅から会社までは
車で15分。途中、息子さんを学校で降ろ
します。



>> 始業

まずはメールチェック。欧州各国や本
社のほか、社外関係先とも緊密な連絡
を取り合う。



>> ランチ

同僚と社員食堂で。メニューには日本
食や欧風料理などが並ぶ。味噌汁が
お気に入り。



>> ミーティング

PR、デザイン、展示会の装飾に関わる
業者などとの打ち合わせを定期的
に行います。



>> セミナー

最も気を遣うのは MIMTA 開催時の円
滑な進行です。お客様の満足を第一に
考えています。



>> 帰社

退社後すぐに息子さんを迎えに学校
へ。車中は、その日あった出来事を
話合います。

—— 現在の仕事内容は？

欧州マーケティングチームに所属し、欧州各国の営業拠点に向
けて宣伝広告や展示会のサポート、カタログや販促物の製作をし
ています。MIMTAツアーの手配も重要な仕事。当社はマクラー
ン・ホンダのオフィシャルサプライヤーであるため、会社を代表し
て直接連絡を取り合ってもいます。

—— 統括本部として、欧州各国の営業拠点をどのように 取りまとめていますか？

たった4人のチームなので、小回りを利かせることが大切。その
上で、各国の文化や仕事の仕方に敬意を払い、個々に丁寧に対応
しています。このため、最近では、本部と各国の担当者との間で定期
的なミーティングを開くようにしました。私たちは、この機会を活
用して、各国に適した最善のマーケティング戦略について意見を
交わしています。

—— 仕事で苦労したことはなんですか。 それをどのように解決しましたか？

EMO(欧州工作機械見本市)開催年の準備は毎回大変です。
この行事にまつわるあらゆる手配を欧州各国の拠点と連携して
進めなければならないからです。企画段階から開催当日の運営
まで、サプライヤーの協力も得ながら組織が一体となって万全の
準備を整えていきます。状況に応じた柔軟さも心がけています。



マーケティングチームのクリスマスパーティ。仕事もプライベートも楽しめます♪

—— 英国で働くことの意義や難しさは？

とても楽しんでいます。勤務先のウースターでは、誰もがマザッ
クの名前を知っていて「マザックで働いている」というと、うらや
ましがられます。忙しい毎日ですが充実しています。外国人として
働く難しさはまったく感じません。最初は母国との違いに大変驚
きましたが、今ではすっかり慣れてしまいました。特に食べ物で
は、名物のフィッシュ&チップスは最高だと思います。

—— 今後チャレンジしたいことや達成したい目標は？

私の個人的なゴールは会社のゴールでもあります。ですから
個人的な成功を会社の成功につなげられたらと思っています。
特に、日本と遠く離れた欧州の地で、世界レベルの最新技術が搭
載された機械やCNC装置をお客様に紹介したり、購入を手助け
したりできることを大変誇りに思います。今後は、他社との差別
化につながるアフターサービスの充実を重点的に強化したいと
考えています。

国内外に拠点を展開するマザックには、世界各地にリュウさん
のようなさまざまな国籍を持つスタッフがグローバルに活躍して
います。欧州各国との連携を主力業務とするリュウさんの仕事は
マクラーレン・ホンダの復活で、ますます忙しくなりそうです。

News & Topics

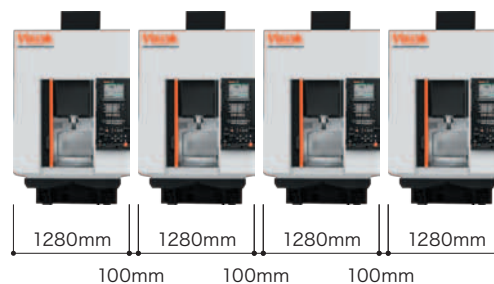
量産加工の生産ラインに最適なコンパクト&高性能立形マシニングセンタ VERTICAL CENTER PRIMOS 400 S

二輪・自動車などの小物部品加工向けに、
新しく開発されたBT-30主軸搭載の立形
マシニングセンタが登場。省スペースで優
れた加工性能によって、少ない投資コスト
で高い生産性を実現します。

- 生産ラインの構築が容易なテーブル固定の機械構成
- 加工用途に合わせた豊富なテーブルバリエーション
- 切屑排出などのメンテナンスエリアは機械後部に配置



量産加工に最適な自動化システムでさらに生産性向上



テーブル作業面の大きさ
600×400mm
移動量(X/Y/Z)
500/400/350mm
主軸回転速度
12000min ⁻¹
早送り速度(全軸)
60m/min
工具収納本数
14本

今号の表紙



屈折旋光計など、株式会社アタゴの製品を構成する部品
たち。これらは埼玉県にある深谷工場で生産されています。
工場内の作業空間がガラススクリーンで囲まれ、製造過
程を見通すことができる開放的な設計。雨宮社長の幼少
の思い出から選んだという深谷の美しい風景が、工場内に
染み渡るように広がっています。

ヤマザキマザック美術館は、美術鑑賞を通して豊かな地域社会の創造、ひいては日本、世界の美と文化に貢献すべく、名古屋の中心地 葵町に、2010年4月に開館致しました。

当館は、創立者で初代館長の山崎照幸が蒐集した18世紀から20世紀にわたるフランス美術300年の流れを一望する絵画作品及びアール・ヌーヴォーのガラスや家具等、ヤマザキマザックのコレクションを所蔵・公開しております。

みなさまのご来館をお待ちしております。



THE YAMAZAKI MAZAK MUSEUM OF ART

所蔵作品ご紹介

エミール・ガレ「海馬文花器」

暗く深い海の底。藻のような赤い線の合間をたゆたうタツノオトシゴ。遙か天より差し入る陽光はもやがかり、幻想的な世界が花器全体に広がっています。

この作品がつけられた当時、フランス国内はユダヤ人将校ドレフュス大尉への冤罪事件 通称「ドレフュス事件」で騒然としていました。ガラス作家 エミール・ガレは判決を不服としたひとりとして、解剖学で脳神経の一部を示す海馬(タツノオトシゴ)を花器に表し、事件を風化させないよう、抗議の意味を込めたといわれています。

本作は、ガレの中でも特に名声を博したものの一つです。その後、本作のヴァリエーションがフランス共和国からデンマーク王室に贈呈され、今でも、王室の大切なコレクションとなっています。



エミール・ガレ(1846-1904)「海馬文花器」1903年頃



世界に挑んだ明治の美

宮川香山とアール・ヌーヴォー

2015年
4.25 | 土 | - 8.30 | 日 |

- ◎ 開 館 時 間 : 平日 / 10:00 ~ 17:30
土日祝 / 10:00 ~ 17:00 (入館は閉館の30分前まで)
- ◎ 休 館 日 : 月曜日(月曜日が祝日の場合は翌平日休館、5月7日(木)、7月21日(火)休館)
- ◎ 入 館 料 : 一般 1300円(10名様以上1100円)、18歳未満600円
小学生未満無料 音声ガイド無料サービス

幕末から明治にかけての激動の時代、日本古来の伝統工芸技術を身につけた職人たちは、急激な西洋化の波にさらされ、大きな岐路に立たされました。明治政府は工芸を輸出産業と位置付け、積極的に輸出を奨励したのです。職人たちは奮い立ち、入魂の作品をもって世界に挑んでいきました。初代宮川香山(1842-1916)もそのひとりです。神業と賞賛される高度な装飾技術によって、世界の美術愛好家らを驚嘆させた宮川香山の高浮彫の作品は、世界各地で数々の受賞に輝きました。

本展は超絶技巧と称賛された香山の高浮彫の数々やエミール・ガレ、ルネ・ラリックらの作品を紹介します。

激動の時代を生きた明治の職人達が手業に込めた強い意気込み、また、それに触発され、少なからず影響を受けたアール・ヌーヴォーの作家達との競演を、是非ご堪能下さい。



ヤマザキ マザック 美術館
開館5周年記念展